

令和6年度 第2回福井市行政改革推進委員会 会議結果

- 1 開催日時 令和6年10月9日(水) 15:25～16:40
- 2 開催場所 市役所本館8階 第8会議室AB
- 3 出席者
- (1) 委員 三寺 潤 委員長、田村 洋子 副委員長、井上 武史 委員(リモート出席)、景山 直恵 委員、春日野 道治 委員、真田 悦子 委員、竹川 充 委員、前田 聡一郎 委員、山崎 栄一 委員(宮下 麻衣子 委員は欠席)
- (2) 事務局 総合政策課、広報プロモーション課、職員課、財政課
- 4 会議次第
- 1 開会
- 2 議事
- (1) 令和6年度 第1回財政健全化専門部会の会議結果について〔報告〕
- (2) 行財政改革に係る取組について〔協議〕
- ・「伝わる広報の充実」に向けて
- (3) その他
- 3 閉会
- 5 議事の概要

委員長	(1) 令和6年度 第1回財政健全化専門部会の会議結果について〔報告〕 本委員会に先立ち開催された専門部会について報告する。 事務局から資料1-1に基づいて、令和5年度の決算状況そして福井市財政再建計画の総括について、報告があった。 【資料1-1、1-2、1-3に基づき報告】 1ページの3番目、①財政調整基金については、目標30億円以上を達成することができた。令和8年に向けてさらに積み立てていきたいということであった。②経常収支比率については、少し税収が増えたということで、目標の93%以下を達成したという報告があった。 未達なのは、③、④である。③実質公債費比率は、3カ年の平均を取った数字になっており、単年度では9.8%となり、目標を達成することが一部できたが、3カ年で見ると、達成はできていないという現状であった。④市債残高は、目標850億円以下であったが、新たな公共施設の整備等もあり、53億円増えてしまい未達という結果であった。 そして、⑤将来負担比率は、目標90%以下で、⑥プライマリーバランスは黒字を目標としたいということで、見続けていかなくてはいけない状況ではあるが、目標は達成したという状況になっている。 委員の方々からいただいた意見について、いくつか説明する。 まず、施設の活用マネジメントの具体的な中身について、縮減していくという方向性というところが非常にネガティブなところと、市長が代わられたことによる方針とどう関係があるのかというご質問があった。こちらに関しては、市長が掲げている、楽しい!安心!元気!というこ
-----	---

	とと、既存施設をうまく利用しながら、有効活用していく方策も他都市にはあるので、そういったコメントを受けて、今後に活かしてほしいというご意見であった。 また、物件費・補助費について、2ページ取組内容の、「事業費の縮減」の1つ目のマル、「一般財源増加」の理由について質問があった。やはり、昨今の物価高騰に関する影響を非常に受けており、特に、令和5年度は、額が大きくなっていると説明があった。 そして、マル2つ目の、「補助金の見直し」については、昨年度、ヒアリングをして、問題はないという結果は出てはいるが、地域の団体の方々の今の状況が妥当かどうか、活動に支障があるのではないかと現状をしっかりと見ていただき、見過ごすことがないようにしてほしいという意見をいただいた。 他にも面白い質問があり、市債残高が市民1人あたりいくらか、皆さんご存じだろうか。 これは知っておくべきだよという話で、市に換算すると人口1人当たり約53万ということで、皆さんはそういった借金を市に対してしているということである。そして、県になると108万円、国になると1,000万円超えということで、これはネガティブな話ではなく、今後こういったことに対して自分達に何ができるのか、政策的にそれをどうやって優先順位をつけて、進めていくのかといったことをきちんと考えながら進めていく必要があるだろう。こういった数字も知っておく必要があるのではないかとご意見であった。 最後に、この前段の財政健全化専門部会は、一旦役割を終えて、違う名称になって、また1ページの5つの指標と同じ指標で見守っていくということで、今までは健全化専門部会という名称であったが、「持続可能な財政運営専門部会」という形に名称を変えるという報告があった。 以上の報告について、ご意見、ご質問はいかがか。
委員	市民の方々の意見と私ども企業の立場で少し違っているところがあって、その一つが施設の活用面である。事業者さんからは、物価が高騰している中で、行政が保有しているいろいろな入浴施設だとか会議施設などの値段が非常に安い。賃上げが言われ、その原資となるような値上げを同業の事業者がしようとする場合、行政との値段の差があるので、なかなか値上げができにくくなっており、従業員の給与を上げにくいという話を聞く。 当然、行政は市民サービスをやられているので、安定的な提供をするのはわかるのだが、一方で企業の方も市民であるので、そういったところを少し勘案していただき、条例ですぐには変えられないのかもしれないが、物価スライドでそういったものは検討できるような仕組みがあると良いと思う。
委員長	同業者の中では、値段の格差があるということで、そういったところを検討していただけないかというご意見だと思う。こちらについて事務局から何か返答があればいただきたい。
事務局	指定管理者の方でお願いしている部分もあり、計画の中で今すぐ上げるということは難しいが、いただいた意見については、いろいろ考えていきたいと思う。
委員	先ほど、令和8年度までに財政調整基金50億円を目指すとあったが、前回の大雪で使った費用が50億円なので、個人的には、少し精査をしてもう少し増やした方が良いのではないかと思う。1回の大雪で消えてしまうのではないかと状態よりも少し増やしておいた方が良いのではないか。

	そして、市債残高については、なかなか難しいと思うが、上手に減らしていく計画を立てる必要があるように思う。
委員長	先ほどから何度もあがっている、1ページ3の①財政調整基金について、大雪の時に一気に使ってしまった大事なお金だが、今のところ令和8年までに50億円以上積み立てようと目標設定している点への希望ということでのご指摘であった。 市債については、先程、紹介させていただいたが、こういった数字はなかなか皆さんも実感としてないと思う。市から打ち出される政策もあるかと思うが、ぜひ、これぐらいの金額が借金としてあるということと、具体的に何をすべきか、我々に何ができるのかというところも併せて考える必要があるように思う。
	(2) 行財政改革に係る取組について〔協議〕 それでは、(2) 行財政改革に係る取組として、今回は、「伝わる広報の充実」に向けて、事務局から説明を。
事務局	【資料2に基づき説明】
委員長	ただいまの報告に対し、質問等はないか。
委員	広報紙を持ってきた。ちょうど町内の当番をしており、月2回程度、広報紙やチラシを町内に配る役をしている。 広報紙は内容的にわかりやすくなったと思っている。横書きなので、見慣れている。若い人に見てもらおうと思うと、そういう工夫は大切だと思う。
委員長	広報紙は、最近すごくわかりやすくなったと思う。表紙に写真があつて、すごく良くなった。 ただし、これを若年層が見ているかというところで、世帯で配られたとしても、例えば自分の子供が見ているかといった点についても話していきたい。
委員	以前、自治会長をしていた際、月2回程度配布物を班長に配る経験があり、月2回、大変だった記憶があるので、月1回にして紙面を充実させる考えには賛成である。 広報紙は、フリーペーパーかなと思うような表紙で、興味をそそっている。 大学教員の立場から言うと、広報紙の内容をどうしていくかについては、他の大学等で研究をされている先生方が多く、参考になる自治体の動きがあると思う。 また、大学生に関する話があつたので言うと、私の所属する大学では、2、3年生が社会課題を解決しようと、「課題探求プロジェクト」という形で、企業や公共団体の方々と一緒に学習をしながら、大学生の視点から活動に取り組んでいる。 例えば、ある製造業者が自社の事業を知ってもらいたいというニーズに対応して、TikTokのアカウントを自分達で作って、たまたま1回だが、約70万回再生、約2,300「いいね」が付いた。なぜこんなに来たのかを分析しているところである。 よろしければ、声をかけていただければと思う。

委員長	社会課題の解決というところは、各大学が必修で設けているので、ぜひそういったところを活用いただけたらと思う。特にマーケティングに関しては、どの大学も何らかの関わりがある先生や学生もたくさんいると思うのでぜひ連携をとって、実際の活動につなげていただければと思う。
委員	広報紙は、市政広報なのか市民を主役にする広報なのか、精査をする必要があると思う。 もう一つ、これは、議会に伝えないといけないのだと思うが、議会広報についてもほとんど見る人がいないと思うので、残念である。中身を精査し、役割を分ける必要があると思う。 福井市全体で出している広報紙の役割分担をきちっと目的化して、そして中身を検討していくことが今求められていると思う。 市長の方針に基づいて、こういったことを出すことも良いと思うが、若い人にたくさん見てほしいならば、若い人が頑張っているような例を出さないと見ないと思う。 それから、広報紙面にはお知らせ的なことも含まれているが、分けて発信しても良いのではないか。例えば、お知らせは市のホームページで出せば良く、今やイベント情報はほとんどSNSで見て参加する方が多いと思う。そういう観点から広報紙を考えてはいかかかと思う。 最後に、この場でいう話ではないかもしれないが、市職員のメール容量が少なすぎると思う。DXの時代に、今の容量は時代遅れだと思う。こういったところは全庁的に改善すべきだと思う。
委員長	私も何度かこの会議でもお話しさせていただいたが、財政の支出のところに關係してくることもあって、機器類がかなり古いものを使っている。そんな中で今風のものができるかという、やはり自分達が持っているものでしか作れないことに葛藤がある。そこは何とか投資しなくてはいけないところではないかと思う。
委員	広報紙については、職員がすごく楽しんで作っているようにうかがえるので、この調子でどんどん進めて良いのではないかと思う。 一方で、やるが増えてくると、減らすことも考えた方が良くと思う。よくSNSのアカウント増え過ぎ問題がある。これらの整理は早めに必要で、スクリーニングの仕組みを整え、一旦、定数調査をして、やめるものを整理する等「やめるデザイン」を考えると良いと思う。 「やめるデザイン」に関連し、広報紙全般に言えることだが、もう少し文字量を減らしても良いのかもしれない。思い切って文字数制限を設けると、人間は其中で何とかしようと頑張るものである。一度プロにレイアウトを組んでもらい、その中で定型的なフォーマットを使いながら文字を減らすと、業務効率もクオリティもアップするので良いかと思う。 あとは、市民や若い方に届くようにという話について、ジャストアイデア的なところもあるが、市民の方を編集部に入れて一緒にミーティングをして作るのも面白いかもしれない。
委員長	すごく大事なキーワードとして、減らすことをうまく考えようというところと、アカウントを含めて「やめるデザイン」というところの精査から始める、なおかつフォーマットをしっかり作るということで、職員内でやるのではなく、最初の部分はやはりプロの力を借りてやる必要があると思う。
委員	広報紙やSNS・チラシという話になっているが、ウェブサイトはどうするかも整理した方が

	良いと思っている。SNSで情報を知った時に、このイベントに行きたいなと思うと、全部の情報が集約されているウェブサイトを見に行くというのは、若い人でも一緒だと思う。福井市のウェブサイトを見ると、見られ方を考えられていないことが多く、必要な情報が文字列で羅列され、「PDFはこちらから」となっており、はじめから出してくれると良いなと思うことがある。 今回、ウェブサイトというところは取り上げられていなかったのも、ウェブの1ページでどう見えるか、どう見られているか、どういう順番で情報を見ていただけるかを考えてほしい。 SNSについては、どう効果的に運用しようかやバズらせたいなどがあると思うが、専門的な部分もあるので、テレビやラジオと同じように、ひとつのインフラだと思って、基本的な情報をきちっと載せていくということを大事にしてもらいたい。 特に、福井市が運営する物に関しては、私は個人的にそれを期待している。災害時などにいろんな情報が流れてくる中で、市のページやSNSを見てみようとなるので、効果的というのもすごくわかるが、必要な情報は当たり前に掲載することを徹底してもらいたいと思う。 広報紙については、私も楽しく読ませていただいていたので、載っている内容がそのままSNSで流れてきたら、楽しく読めると思う。 具体的な話になるが、チラシを作る時に、どのように作ると良いかという話を何度かさせてもらうことがあるのだが、情報の優先順位をきちんとつけるとすごくやりやすくなる。 もしデザイナーに発注するような場合は、仕様書段階でどれが一番大事な情報か、優先順位をつけるとお互いやりやすいと思う。 実際、プロの現場では、パッケージデザインや面積が狭いデザインのオーダーの時には優先順位を明確にして依頼が入る。チェックシートみたいな、フォーマットを作ると良くなるのではないかなと思う。
委員長	確かに今回、ウェブサイトの話は無かったと思う。ここを第一段階としてきちんと整理し直すという意見であった。 最後の、情報の優先順位の話は、ぜひレクチャーし、まず職員に知っていただき、例えばデザイナーへの発注や自作する時の参考にする、それがマーケティングだと思う。
委員	広報のこういった取り組みは、自分の所属でもなかなか悩んでいるところなので、非常に勉強になり、良い取組だと思った。特に、若い人向けの発信ということは、とても大事なことだと思うので、ぜひ、SNSを使っていただきたいと思う。 東京にいと、福井の情報がそんなに届いてこない。SNSを使うと垣根はなくなるので、特に関西とか、東京、金沢等に出られた方々に福井の状況などをお伝えするチャンネルとして活用していただくのも良いのではないかなと思う。 もちろん、市民の方への広報だと思うが、関係人口という意味ではいろんな地域におられる方も、市民の1人だと思うので、そういった方への発信をぜひ検討していただきたい、逆にそういった方々からの発信も、ぜひ福井の方でも受け取っていただけると良いのではないかなと思う。 もうひとつ、チラシのデザイン改善というところで、「ナッジ」は非常に良いのではないかなと思う。様々な部署がチラシを作っているのが現状だと思うが、職員が自らデザインするというより、印刷業者の方にデザインを含めてやっていただくことが多いのではないかなと思うので、この取組がどの程度市役所の中で浸透しているのか、この人数で全体のチラシの改善にどの程度効果があるのか、ややイメージしづらい。ぜひ、市役所内で広げていただけるようにし

事務局	ていく必要があるように思う。 「ナッジ」は、昨年度から本格的に始めている。資料にあるとおり昨年度は10の取組について、原課からナッジユニットに相談があると一緒に問題等を考えてチラシの改善を行っているところである。全庁的にということであれば、研修などで職員への周知や、「ナッジ通信」という、ナッジユニットがこんなことやっているというお知らせを月に1回、職員向けの掲示板で発信している。例えば、今回、環境大賞を受賞したことも、こういったことでこんな結果が出たので、使ってみてはいかがかという投げかけをしており、徐々に浸透していると考えている。
委員	特に、LINEとInstagramについてだが、自身の職場においても手掛けていて、友達集めや広報の頻度など、頻繁に発信するとブロックされてしまうので、悩ましいところである。 LINEについて、福井市はチャットボットを活用して、いろんな市民からの問合せに柔軟に対応をされるのが非常に早かったのが素晴らしいことだと思っている。 ただし、友達の数を見ると、現在、1万5,634人だったので、市民の6%弱程度ということで、まだまだ伸びしろがあると思う。 Instagramについては、アカウントが30個ぐらいあり、中にはフォロワーが10数人ぐらいしかいないのもあるので、ちょっと整理された方が良いと思う。 Instagramは、見映えのするものを載せるもので、掲示板ではないので、Instagramの性能に合ったものを載せることで若者に見てもらえるのかと思う。 また、福井市の場合は、個別部署のInstagramのアカウントがあるが、総合的なオフィシャルのアカウントがない。 例えば、注目のトピックスや今月の市長のメッセージ、イベントといった情報についてはそういう総合的なところで載せる方が、市民にとってもわかりやすいのかと思う。 動画については、パワーポイントで制作することについてのアンケート結果があったが、パワーポイントで動画を作るのは面倒だと思う。 例えば、スマートフォンを何台か用意し、そこにテンプレート付きの無料のアプリケーションを入れてそれで簡単にできる時代なので、そういった方法で対応されてはいかがか。
委員長	動画の話は、先ほどの機器類の話と関連してくるのかと思うので、柔軟な機器の更新というところはぜひ率先してやってほしいと思う。
副委員長	高齢の方々は、広報紙を見て、明日休みだから、どこかで何かやってないかなという、行事的なことを見るのに使う。先ほどおっしゃったみたいに、市長は何を想っているのか等については、市の広報紙ではあまり載っていないので市の動きがあまりわからない。 なので、先ほど委員が言われたみたいに、事業のお伝えと市政に関わることを分けて発信してはいかがか。 また、広報紙に掲載しようと思うと、3ヶ月程前から準備をしないと掲載できないということなので、その辺のところをSNSで発信する方法として、例えば、行事のところに集約し、情報にたどり着きやすくするようにしてはいかがか。 高齢者には、広報紙はすごく役立っている。自治会で分ける時は、安否の確認になっている。月2回は多いと思うが、月1回はほしいと思う。 先ほど言われたみたいに、すごくページが多いので、見るのにも大変。県政広報は薄く、要

	点が見やすい。また、新聞に入ってくるので見やすいと感じている。
委員長	こうなってくると戦略チームが必要かと思う。やはりターゲットによって、そのあり方が明らかに違うので、その前段の戦略を立てないと、作るという作業に移れないような気がする。その辺は予算もあるだろうから、ぜひ検討いただきたいと思う。
委員	発信することの話がメインだったが、読む人のメリットというのも世代ごとに違うかと思う。今、副委員長の話を聞いていて、紙の広報紙を取りに行ってもほしいと思うのは、これを読むメリットがあるからだと思う。なので、例えば、それが小学生、中学生、高校生、大学生、社会人などいろんなカテゴリに分けられると思うが、その人たちの取得するメリットみたいな部分をきちっと考えると、紙がいいのか、SNSが良いのかははっきりしてくる。 自身の高校生の子も、まさに社会課題の探求の授業があり、市のことをわかるためにも広報部みたいなところで高校生や大学生が混じって、一緒に作ると面白いなと思い聞いていたが、その子がまず広報紙を読まない。LINEで見ると言ったら、それもしない。 しかし、高校2年生になって、大学受験を視野に入れ、新聞を見るようになり、新聞紙で情報を知りたいと言う。それは、子なりのメリットなのだと思う。 なので、広報に関しても、いろんな市民にどういうメリットがあるかを考えて発信することも一つの方法かと思う。
委員長	読み手側のメリットと言われると、あまり考えず発信されたかもしれないので、この辺分析をすると出てくるような気がする。参考にさせていただければと思う。
委員	若い人はSNSで、中高年の方が、広報紙(冊子版)という話だったが、例えば Instagram やTikTok等を、要は興味を引く入口というところで活用し、それで全部の情報を伝えるわけではなく、最初に、市長がやっていること面白いね、市の職員が何か面白いことを発信しているねと知ってもらえて、そこから詳しいことにつながっていくと思う。 まず、そのアテンションいう部分をどう作っていくのが良いか、行った先のコンテンツをどう作っていくのかを分けて考えないといけないと思う。
委員	最近、「BeReal.」といって、合図が来たら、インカメラと外カメラの両方で写真を撮って、ナチュラルなまま、自分がどこにいるか、何をしているかを送るだけのSNSみたいなものがある。 市長が「BeReal.」を使ってみるのも面白いかもしれない。
委員長	ひとつのアイデアである。そういう新しいものの情報なども積極的に取っていただいて、何が必要なのかの判断をしていただきたいと思う。 たくさんアイデアが出てくるかと思うが、どちらかというと、マーケティング的な話で全体として何をすべきなのかというところをプロ目線で具体的な話をいただけたらと思うが、デザインの話はその次か。
委員	デザインは、そもそも読む人にとってどうなのかというところから出発する。見やすいというのも、最終的に色とか写真とかを変えて見やすくするが、最終的にどうだということをめがけてやるもので、デザインは何を伝えたいのかというところで、最初から考えていないといけな

	い。技術的な意味で綺麗に見せるというのは、後工程のような感じもするが、最初から考えていくことが望ましいと思う。
委員長	具体的にどう進めるかについては、また考えていただきたいと思う。 それでは、他に意見はないようなので、議事(3)その他について何か意見はあるか。
委員	能登で地震や水害があり、市民の皆さんも自分事として心構えをしておかないといけないと考えている人がいるのではないかなと思うが、リスクに備えた取組は何かされているのか。
事務局	能登地震の後に、木造住宅の耐震診断について申し込みが多く、補正予算で対応はしている。なかなかインフラ整備となると、非常に時間かかるころだと考えている。
委員	市民が安心できるような発信みたいなことがあるのかと思ったのだからいかがか。
委員長	先ほど委員からもそういったインフラに関わることは丁寧に発信していく必要があるという話があったが、その前段の整理が必要だと思う。現状はどうなっているのか。
事務局	実際、水害が起こった時に消防や上下水道局の職員がかけつけたことについては、マスコミに投込みをして、ニュース等で流れていたと思うが、現状は、マスコミへのお知らせ、あるいは市長記者会見でお話をさせていただくというところに対応をしている。
委員長	SNS等で特に発信はされていないということか。
事務局	SNSでの発信はしていない。
委員長	道路に関することなど、様々な管轄によってそういったものがバラバラにあるが、その辺も市に関係するところは少し集約して見られるようにするなど検討材料にいただければと思う。 それでは、これをもって協議は終わりたいと思う。

(16:40 終了)